

20007

Deploy の際 migration をおこし全脳虚血の危機に陥った緊急 TEVAR の一例

75 歳, 男性. 近年医療機関受診歴なし. 胸痛を主訴に救急を外来受診した. CT にて遠位弓部大動脈切迫破裂(最大短径 97mm), 腹部大動脈瘤(最大短径 60mm)をみとめた. TAA に関しては中枢 zone1landing の TEVAR で治療可能と判断し緊急手術を施行し, AAA に関しては待機的 EVAR を施行する方針とした. 右碗頭動脈(BCA)と左総頸動脈が共通管をなしていたため 1debranch を施行し, 左鎖骨下動脈起始部に vascular plug を留置したのちステントグラフト(SG;VALIANT)の留置を開始した. 中枢側の SG を deploy する際血流に押されたため counter force をかけたところ, BCA をカバーする形で deploy された. BCA より上行大動脈にガイドワイヤーが通過したため, self expandable STENT(Epic)を BCA 起始部に delivery し, VALIANT の tip capture を release した. エンドリークなく手術を終了し, 抜管した. 術後 1 日目に冷汗を伴う意識消失発作を繰り返したため CT 施行. Epic が SG に圧排され BCA の高度狭窄をみとめた. 左上腕動脈アプローチで狭窄部位に balloon expandable STENT(Express)を留置した. 再治療後より意識消失発作はみとめられなくなった. 術後経過中に腹部大動脈破裂を発症し緊急 EVAR を施行. 反回神経麻痺による誤嚥性肺炎を合併したが回復しリハビリ目的に転院となった.